速　報　欄

553. 411 : 550. 8 (524)

十勝國神威金鉱視察報告

高　畠　　彰*

Résumé

The Report on the Kamui Gold Mine, Tokachi Province, Hokkaidō.

by

Akira Takabatake

The gold placers at the Kamui Mine (Oda, Ohtaki-mura, Tokachi) consist of valley placers and terrace placers. The latter will become an object of undertaking on a larger scale than the former.

Gold content is proved to be 0.5 - 1.7 gr. per m^3 in the two areas, where the survey was done. The second terrace and the lower ones will be workable on a small scale owing to thin sediments, while the uppermost terrace may be workable on a large scale, it is however not yet prospected. The writer contemplates the nonprospected placers 4 km south of this valley to be promissing.

I. 緒　言

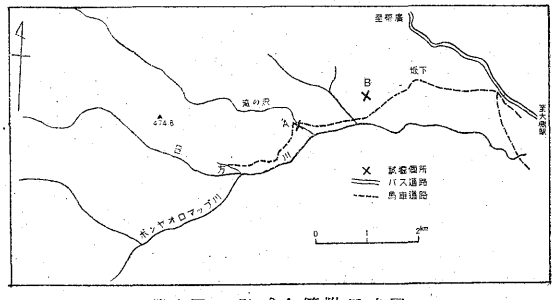
昭和24年1月8日，札幌商工局佐藤鉱山部長の慫慂により，毎日新聞社記者数名の神威金鉱踏査班に，同商工局高橋広治技官と共に参加して，1月12日，13日の両日間，同鉱山附近を視察する機会を得た。

同地域は，原園純秀氏の鉱区を中心とするもので，現在は少数の密採者によつて，砂金採取が季節的に行われているに過ぎない。

本視察に当つては，膝を没する程の積雪のため，地表に於ける露出は全く見られなかつた爲，地質狀態については明かにし得なかつたが，地形の観察と，2カ所に於ける含金砂礫層の一部の陶汰試驗によつて，鉱床の片鱗を窺い得たので，以下に簡單に報告する。

II. 位置及び交通

十勝國大樹村字尾田にあつて，坂下部落より西方4〜5 km に亘る地域で，五万分の一地形図上，札内の中央南西寄りに当る。



第1圖　神威金鑛附近略圖

大樹駅より尾田(大樹駅の北西10 km)を経て，更に北西6 km までは，冬季間を除きバスの運行があり，その西2 km の坂下部落及びそれ以遠は，辛じて馬車を通じ得る小径があるに過ぎない。

III. 地　形

日方川(ヤオロマップ川)とポンヤオロマップ川との合流点附近より，東5 km に亘る狹長な地域は，日方川の溪谷の扇狀地への出口に当り，稍高峻な山稜間に夾在する，緩斜地を形成する。この緩斜地は，旧河床を代表するもので，数段の段丘よりなる。

この段丘の南縁附近には，現河流(日方川)が峽谷をなして東流する。随つて，日方川の左岸(北岸)に沿つてのみ段丘は発達し，右岸では急斜をなす山腹が迫り，坂下部落より滝の沢に至る間に，小規模の段丘が点在するに過ぎない。段丘地帯の最上位の第1段丘は，幅1 km で，長さ3 km 余りに亘り，本地帯の大部分を占めるものである。その下に，主な段丘3段を算え得るが，第2段丘は合流点附近で蕨原野と呼ばれ，幅100〜200 m に達する所がある。第3段丘，第4段丘は，ともに幅10〜50 m 程度に過ぎない。第2段丘以下の各段丘は，何れも現溪谷に沿い，長さ数 km に亘つて断続する。

各段丘の高さについてみると，最上位のものは20 m 余であるが，第2段丘以下は，高さ10 m 内外である。

IV. 地　質

この地域の基盤岩石は，積雪のため全く観察し得なかつたが，文献(大樹図幅)によれば，坂下部落附近以東は第三系よりなり，その西に中生層があり，滝の沢以西は日高系の砂岩・粘板岩よりなる。

* 北海道支所探鉱課長

これらを被覆する段丘堆積層は，厚さ1〜2mで，坂下部落附近の最厚部で数mに過ぎない。試掘個所に於てみると，本層は砂礫層を主とし，その間に薄い砂層又は粘土層を夾んでいる。砂礫を構成する岩石は，砂岩・粘板岩・ミグマタイトを主とする。

V. 鑛　床

本地域の砂金鉱床は，溪谷砂金と段丘砂金とからなる。

溪谷砂金は日方川の現河底中にあつて，金粒は，一般に段丘砂金よりも大粒のものが採取されることが多く，雨後には特に河底中の一部に集積されるという。

河底の幅は一般に数十m以下であり，又巨大な礫の累積が著しく，砂金の分布は極めて不規則なため，副業的に採取する外はない。

段丘砂金は，主として坂下部落より滝の沢に至る間のものが，嘗つて採取された。これに反し，最上位段丘及び蕨原野は，未だ試掘されたことがないため，鉱床の存否は全く不明である。

本期間中には，滝の沢及び坂下部落鈴木正作氏宅裏を試掘した。排水作業困難のため，何れも基盤に到達しなかつた（基盤上数十cm内外までは堀下げた見込であるが）ため，層序及び正確な含金量は明かではないが，大略は次の通りである。

(A) 瀧の澤　表土0.2m下に，厚さ1m以上の含金砂礫層があり，この部を掻板によつて陶汰した所，1立坪当り2.9g程度の含金を認めた。金粒は純度800内外で，稜角のない扁平な形を示し，大きさは多くは，0.5mm×0.5mm×0.1mmである。

(B) 鈴木正作氏宅裏　表土数十cm下に，厚さ1mの砂礫層があり，その下位に厚さ1m以上の含金砂礫層がある。これを陶汰した所，1立坪当り3g程度の含金を認めた。金粒の純度・形及び大きさは，略滝の沢産のものと同様であるが，その一つに，3mm×5mm×0.2mmの板状のものがあつた。

以上の二個所に於ける陶汰試験では，(1) 基盤直上の部分を試験し得なかつたこと，(2) 処理量が少ないことのため，その結果得た数字は，そのまゝ各地点に於ける鉱床の歩留りとする事は不適当であるが，大略の桁数と最低限界を示すものと解釈し得るものと思われる。随つて両地点とも，一立坪当り3〜10g程度とみて大過はないものであろう。

鉱量については，試掘個所が2個所に限られた爲，段丘堆積物中の金筋 pay streak の分布，規模については現在の所不明で，これを予想し得ない。

VI. 結　論

本地域の砂金鉱床は，溪谷砂金と段丘砂金とよりなりその中溪谷砂金は分布が不規則小規模で企業の対象とはなし得ない。随つて今回の踏査対象も，自から段丘砂金に向けられた。

本期間中には，広大な段丘地帯中の2カ所の試掘に過ぎないため，金筋の分布・規模及び歩留りは，今後の調査結果に待つ外はない。

今回知り得たことより結論すれば，まず歩留りは両試掘個所に於ては1立坪3〜10gと見込み得るので，本地域の鉱床は品位の点では期待し得るものがある。

鉱量の点より見ると，第2段丘以下のものは堆積物薄く，随つて鉱量は少いため，小規模稼行の外はない。

未探鉱の最上位段丘は，広大な地域を占め，更に堆積物の厚さも稍々大きいので，この段丘中の砂金の有無及び規模が，この地域の企業價値を決定するものである。

現在の所，これに対しては全く資料がなく，更に採掘法，選鉱用水，農地等困難な問題の解決を要するので，今後の調査で充分検討した上，企業價値を判断すべきである。

聞く所によれば，本溪谷の南4kmにて，これと平行して東流する中川流域の砂金鉱床が有望視されるので，これを含めて広地域に亘る概査（ねこ流しを併用する）を，融雪を待つて行う必要があるものと思われる。（昭和24年1月）

553. 673 : 550. 8 (521. 12)

岩手縣宮寺附近及び夏山滑石鉱床概査報告

坪　谷　幸　六*

Résumé

Talc Deposits from Miyamori and Natsuyama, Iwate Prefecture.

by

Kōroku Tsuboya

Talc deposit of the Miyamori district is the largest of the deposits of Tōhoku Region

* 元鉱床部長